



News Letter

No.16

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

平成 26 年 6 月 30 日発行

【本号のトピックス】

第25回学術大会報告／委員会だより(認定制度委員会, 学術用語委員会)／
新執行部紹介／支部活動だより／口腔ケア活動の紹介 ほか

日本老年歯科医学会第25回学術大会が盛会裡に終了



会場の電気みらいホール



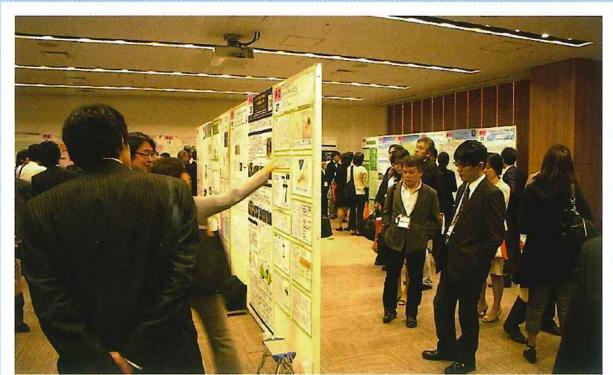
柿木保明大会長の挨拶



シンポジウム会場



口演会場



ポスター会場



企業展示



懇親会

本学会第 25 回学術大会が、6 月 13 日、14 日に福岡・電気みらいホールにて開催され、盛会裡に終了しました。来年は横浜にて、日本老年学会と同時開催の予定です。

委員会だより

認定制度委員会

委員長 井上農夫男

認定制度委員会は、認定医制度と専門医制度の運用を円滑に運営するために設置された委員会です。平成23年6月16日の一般社団法人日本老年歯科医学会社員総会において、従来の認定医制度規則・施行細則の改正ならびに専門医制度規則・施行細則の制定が承認され、新たな認定医制度と専門医制度が平成24年1月1日から発足しました。専門医制度は2年間の専門医制度暫定措置を経て、平成26年1月1日から本格実施されました。

認定制度委員会の主な業務は、両制度の規則や施行細則の改定、ならびに認定医、専門医、指導医、および研修機関などの認定を行います(写真)。また、両制度の事業を適正に行うために認定制度委員会の他に広報・研修委員会、認定資格検討委員会、研修機関認定委員会、認定試験実施委員会、専門医試験問題作成委員会があります。認定制度委員会はこれらの各種委員会と制度全体を統括する役割を担っています。これは、将来、日本老年歯科医学会専門医制度が広告可能な老年歯科専門医を育成する組織として、厚生労働省から認定を受けるために整備された体制です。

現在、医科においては厚生労働省「専門医の在り方に関する検討会」の報告書を受けて、2014年各学会から独立した中立的第三者機関「日本専門医機構」が発足し、2017年度の新専門医制度スタートに向けた準備が進んでいます。今後、歯科においても同様の第三者機関が設立されることが予測されます。認定制度委員会はこのような専門医制の見直しにも対応し、専門医の質を担保する専門医制度を確立する所存です。



一般社団法人日本老年歯科医学会 第1回専門医認定試験
(平成23年11月19日、日本歯科大学、東京)

学術用語委員会

委員長 那須郁夫

言葉は生き物である、とは良く聞くフレーズである。また、言葉あるいは記号は、使う者同士が互いに意味を共有し合うことで初めて存在価値が生まれてくる。

本学会が始まって日の浅いころ、会場での討論や投稿論文で、言葉を無意識(無神経)に使う人とその言葉の理解に悩む人が、会員の中に同時に存在する状況を見た当時の先輩が、「老年歯科医学という括りでひとつ相談しましょうや」というニュアンスで、最初の用語委員会を作ったと理解している。

初めの数年間、編集委員が用語委員を兼務しながら、整理すべき用語に解説を加えては順次老年歯科医学誌に掲載していった。こうして蓄積した解説用語が数百を数えたころ、時の用語委員長眞木先生の指揮の下、初版「老年歯科医学用語辞典」が完成した。平成20年、あたかも本学会の法人化の時期と重なり、その記念と銘打って出版されたこの辞典は会員全員にとってすばらしい宝物になった。

それから5年余り、人口の高齢化はさらに進み、老人の口腔機能の維持向上に対する世間の关心が高まるなど、本学会が受け持つ学術的守備範囲の拡大と専門性に裏打ちされた問題解決案提示への期待が大きくなってきた。気がつけば、この間生き物である言葉も少しづつ進化していたのである。それからあらぬか2年前のつくばでの総会の折、この際、学術用語委員会は老年歯科医学用語辞典「第2版」を目指して活動すべきとの方針が、理事長の森戸先生から出されたのであった。

私個人としては、大会長を終えた「やれやれ感」に浸る間もなく、委員長として初版の875項目(解説は722語)を解体して分野別に組み立て直し、過不足を整理してある程度目次が立ったところで、出版のための予算措置を講じた。その後、委員各位の協力を得ながら約一年をかけて、現在、解説用語数にして約850語の選定に一区切りがついたところである。

向後は、眞木先生に委員長をお返ししたので、出版に向けた委員会活動がなおいっそう弾むはずである。ご期待申し上げたい。

新執行部紹介

理事長	櫻井 薫	認定制度担当	井上農夫男
副理事長	羽村 章	認定資格検討担当	井上農夫男
総務担当	下山 和弘	研修機関認定担当	井上農夫男
学術担当	佐藤 裕二	認定試験実施担当	小正 裕
編集担当	水口 俊介	専門医試験問題作成担当	皆木省吾
財務担当	深山 治久	多職種連携担当	渡邊 裕
教育問題検討担当	那須 郁夫	支部組織・地域保健医療福祉検討担当	平野 浩彦
社会保険担当	柿木 保明	学会間連携担当	高井 良招
ガイドライン担当	菊谷 武	表彰担当	米山 武義
在宅歯科医療等検討	市川 哲雄	規程担当	又賀 泉
摂食・嚥下リハビリテーション担当	菅 武雄	倫理担当	角 保徳
国際涉外担当	植田 耕一郎	倫理審査担当	森戸 光彦
広報・研修担当	小野 高裕	利益相反担当	山根 源之
学術用語担当	河相 安彦	法人運営担当	櫻井 薫 (敬称略)
歯科衛生士関連担当	眞木 吉信		
	武井 典子		

平成 26 年度認定歯科衛生士(老年歯科)審査・試験のお知らせ

受付期間：平成 26 年 9 月 1 日(月)～10 月 17 日(金)
必着)

書類審査日：平成 26 年 10 月下旬(予定)

試験日時：平成 26 年 11 月 30 日(日)11:00～

※ 受験者数により試験開始時間を調整いたします。

※ 申請受付締切後に調整の上、受験者各位に試験時間

等詳細を通知いたします。

試験会場：日本歯科大学生命歯学部

試験形式：報告書(様式 6)に基づくプレゼンテーションならびに口頭試問

詳細は本学会 Web ページをご確認ください。

支部活動だより

岡山・鳥取支部共催セミナー

病院歯科介護研究会第 17 回総会・学術講演会

日 時：10 月 12 日(日)9:00～17:00(予定)

場 所：岡山コンベンションセンター 3F コンベンションホール

内 容：Advanced Care Planning —「口腔ケアはスピリチュアルケア」を理解する

主 催：病院歯科介護研究会

会田薰子(東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣教室)

「意思決定と事前指示～高齢社会で求められる Advance Care Planning～」

村田久行(京都ノートルダム女子大学生活福祉文化学部、NPO 法人 対人援助・スピリチュアルケア研究会)

「認知症高齢者のスピリチュアルペインとそのケア」

中山良子(鳥取市立病院 地域ケアセンター、歯科)・歯科衛生士

「始めよう!スピリチュアルケア」

東谷成晃(社会医療法人共愛会 戸畠リハビリテーション病院)・作業療法士

「リハビリテーションはスピリチュアルケアが核心」

足立誠司(鳥取市立病院 地域医療総合支援センター、総合診療科)・医師

「臨床医が考えるスピリチュアルケア」

懸樋英一(鳥取市立病院 地域医療総合支援センター、総合診療科)・医師

「認知症への支援～終末期を生きる～：症例提示」

朝田 隆(筑波大学精神病態医学分野)

「認知症ケアの考え方・高め方 一生活障害を動画で評価し対応を練るー」

連絡先：〒708-0883 岡山県津山市一方 140

積善病院歯科 小林芳友





洗面台に並ぶケア道具。スポンジ
ブラシ、粘膜ブラシなど、歯や身
体の状況に合わせて種類は様々

口の中を清潔に保つ「口腔ケア」は肺炎などの病気を防ぐ意味でも欠かせないとき、導入する介護施設が増えていく。だが、専門的なケアの普及には課題もあるようだ。取り組みを進める横浜市の特別養護老人ホーム「若竹苑」（竹田ハツ施設）を訪ねた。（竹田ハツ施設）

肺炎・インフル予防に効果

横浜の特別養護老人ホーム「若竹苑」



入れ歯をうつた後の手入れ方法をアドバイスする
歯科衛生士の泓雅子さん（横浜市神奈川区羽沢町）

暮らす野上紀文さんは、歯科衛生士の泓雅子さん（48）の姿を見つけるとう

「おーい！」若竹苑で
アを気にいって下さったよ
うで、拒んでいた入れ歯も
作り、食後のケアが習慣づ

いたら表情もがらりと変わ
りました」と泓さん。歯
科もおさまったそうだ。

週に一度、泓さんら2人の
歯科衛生士が直接ケアを行
う日。野上さんは脳梗塞
や糖尿病を患い、認知症も
進む。一昨年9月の入居当
初は食後すぐでも「食べて
ない」と言い、徘徊も
ひんぱんでスタッフを困ら
せていた。それが「口腔ケ
アを気にいって下さったよ
うで、拒んでいた入れ歯も
作り、食後のケアが習慣づ

笑しながら振り返る。

それが「今は私たちスタッ
フの意識も高まり、進ん
で洗面台に向かう入居者が
増えた。食前の口腔体操か
ら食後の歯磨きや舌磨きま
で、毎食後のケアがすっか
り定着しました」。その結
果、導入前は毎冬出ていた
インフルエンザなどの感染
症にかかる入居者が今冬は
ひとりもなく、肺炎にかかる
人も激減した。「個々の
口臭が薄れたことで施設内
全体の空気もきれいに。効
果は明らか」と、スタッフ

迫る2025年ショック

介護施設

口腔ケア着々

■徘徊も改善

れしそうに手を振った。

いたら表情もがらりと変わ
りました」と泓さん。歯
科もおさまったそうだ。

週に一度、泓さんら2人の
歯科衛生士が直接ケアを行
う日。野上さんは脳梗塞
や糖尿病を患い、認知症も
進む。一昨年9月の入居当
初は食後すぐでも「食べて
ない」と言い、徘徊も
ひんぱんでスタッフを困ら
せていた。それが「口腔ケ
アを気にいって下さったよ
うで、拒んでいた入れ歯も
作り、食後のケアが習慣づ

笑しながら振り返る。

それが「今は私たちスタッ
フの意識も高まり、進ん
で洗面台に向かう入居者が
増えた。食前の口腔体操か
ら食後の歯磨きや舌磨きま
で、毎食後のケアがすっか
り定着しました」。その結
果、導入前は毎冬出ていた
インフルエンザなどの感染
症にかかる入居者が今冬は
ひとりもなく、肺炎にかかる
人も激減した。「個々の
口臭が薄れたことで施設内
全体の空気もきれいに。効
果は明らか」と、スタッフ

れしそうに手を振った。

いたら表情もがらりと変わ
りました」と泓さん。歯
科もおさまったそうだ。

週に一度、泓さんら2人の
歯科衛生士が直接ケアを行
う日。野上さんは脳梗塞
や糖尿病を患い、認知症も
進む。一昨年9月の入居当
初は食後すぐでも「食べて
ない」と言い、徘徊も
ひんぱんでスタッフを困ら
せていた。それが「口腔ケ
アを気にいって下さったよ
うで、拒んでいた入れ歯も
作り、食後のケアが習慣づ

笑しながら振り返る。

それが「今は私たちスタッ
フの意識も高まり、進ん
で洗面台に向かう入居者が
増えた。食前の口腔体操か
ら食後の歯磨きや舌磨きま
で、毎食後のケアがすっか
り定着しました」。その結
果、導入前は毎冬出ていた
インフルエンザなどの感染
症にかかる入居者が今冬は
ひとりもなく、肺炎にかかる
人も激減した。「個々の
口臭が薄れたことで施設内
全体の空気もきれいに。効
果は明らか」と、スタッフ

「口腔ケア」活動の紹介

全国各地の高齢者施設で「口腔ケア」への取り組みがなされていますが、地道な活動ゆえ大きく扱われることは滅多にありません。

左の記事は、朝日新聞4月5日付朝刊の神奈川県の地方面に掲載されたもので、ご好意により本紙へ転載いたしました。会員の皆様には、ぜひご自分の地域の活動を本会にご紹介ください。この紙面を使って、今後もこうした取り組みをお知らせしたいと思います。



編集後記

今回のNLは、平成25年6月13、14日に盛大に開催されました日本老年歯科医学会第25回学術大会報告、さらに櫻井薰新理事長体制での委員会担当の先生方の紹介などを構成させていただきました。

新理事長となりましたことから、NLを担当させていただいておりました広報・研修委員会メンバーも代わることとなり、森戸光彦前理事長体制委員会での最後のNLとなります。この2年間様々模索しながらNL作成を行って参りました。新たな試みとしては当学会各委員会だより、支部主催研修会報告などを掲載させていただきました。次号からは河相安彦新委員長の下、新たな切り口での情報が発信されるものと思います。

これからも会員の皆様へ有益な情報を提供して参りたいと思いますので、お気軽に、ご意見、ご提案など引き続きお寄せいただけましたら幸甚でございます。

（平野浩彦）

編集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル402 （一財）口腔保健協会内
電話 03-3947-8894
FAX 03-3947-8341

「団塊の世代」が75歳以上になり、医療・介護の提供体制が追いつかなくなる「2025年問題」について考える企画を続けていきます。介護や在宅医療などのご体験、ご意見を募集します。「食べる喜び」「介護施設での看取（みとり）り」「介護・看護職員

の悩み」「団地で進む高齢化」「遠距離介護」についての情報や、この企画で採り上げてほしいテーマを募集します。朝日新聞横浜総局「2025年問題取材班」あてに、ご連絡先を明記のうえ、郵送かファックス、メールでお願いします。（杉山圭子）

難しいケースもある。口腔ケアが病気の重篤化を防ぐ意味でもいかに大切かを、県としても力説していくべき」と話している。（杉山圭子）